

バレー ボール部

設 立	1963 年
部 長	杉浦 壽彦(機械工学科)
現在の部員数	9 人(2013 年 9 月現在)
OB/OG 連絡先	麻植 衛
OB/OG 人数	226 人
U R L(KVC の HP)	http://kvc02.web.fc2.com/

創部～小金井時代

創部

1949 年に小金井に工学部が移転して間もなく、バレーボールを愛する同志が集まり活動をしてきた。古くは 13 期(1955 年卒)の卒業アルバムにバレーボール部集合写真が掲載されている。当時 1 年生は日吉キャンパス、小金井では 2 年生と 3 年生が中心に活動していたので、慢性的な部員不足に陥っていたためか、なかなか継続的な活動に結びつかなかった。

工学部体育会バレーボール部は、1963 年に発足した。24 期(1966 年卒)が 1 年生の時に知り合ったメンバーで集まり、運動不足を解消するために小金井で始めた。活動が進むにつれチームを創り同好会として活動しようということになった。そこで、バレーボールが好きそうな人を同級生から集め、佐藤豪助教授(機械 1 期)に顧問をお願いして同好会を結成した。

最初の対外試合は、成蹊大学と同校のグラウンド(武蔵野市)で行った。勝敗は五分五分だった。このときに最初のユニフォームを作った。



最初のユニフォーム

その後、上の学年が参加し、同好会から準体育会、体育会と昇格し、夏春の年 2 回合宿ができるまでに盛り上がっていった。

小金井での活動

練習は、小金井グラウンドにバレーボールのコートを設営して週 3 回程度行った。グラウンド及び隣



バレーボール部

13 期生卒業アルバムより



24 期(1966 年卒業)の卒業アルバムより



学内対抗戦(27期卒業アルバムより)

りの多磨霊園内を2~3周走り準備体操の後練習をした。当時は、試合も含めて体育館でバレーボールをすることはなかった。

部室はグラウンドの隅にあり、道具が置ける程度の部屋で、別に水のシャワーを浴びられる部屋があった。泥だらけになるのでシャワーは必要だった。

1965年は東京オリンピックの直後でバレーボールにブームが到来し、未経験者も含めて部員が多く集まった。東洋の魔女をまねて回転レシーブの練習もした。もちろん、バレーボール経験者はフライングレシーブをしていた。

学外活動は、ちょうどその頃立ち上がった同好会理工連合リーグ(現関東理工科系バレーボール



1967年夏合宿の練習風景(この年から6人制に)

連盟主催リーグ)に参加した。試合は春秋、リーグ戦形式で、当時主流の9人制であったが、1967年からは6人制に変わった。参加チームは、早稲田大学、早稲田大学理工学部、明治大学、東京農工大学などの同好会や理工系大学であった。試合には「我々は工学部体育会だ、同好会ではない」という意識で、制服制帽で行った。

夏の合宿は、信濃森上近辺の民宿で行なった。合宿所は自分たちで探したが、グラウンドが付いている宿舍が少なくて探すのに苦労した。午前3時間午後3時間練習した。雨が降ると練習できないのが難点であったが、麻雀などでチームの友好を深めた。

部活動ではないが、学年・学科ごとのチームで戦う学内対抗戦があり、部員は各チームの中心選手として活躍した。

矢上移転~合流

矢上移転

1972年の矢上移転は、いずれの部にとっても何らかの影響があったと思われるが、バレーボール部にとっては非常に大きな転機となってしまった。

小金井ではグラウンドに練習場所(コート)が確保できていたが、矢上では確保できなかった。日吉にも空きがなく、練習場所が確保できず活動できなかった。

その頃すでに活動を開始していた慶應バレーボール同好会(KVC)が、日吉に常設のバレーボールコートを確認していた。そこは、体育会馬術部馬場脇から坂を上がったところに位置していたことから、「馬場コート」と呼ばれていた。部員の一部がKVCにも所属していたのが幸いして、合同練習の形で参加するようになった。

KVCへの合流

翌年には活動の主体がKVCに移り、通常の活動はKVCとして行うことになった。ほどなく、KVCのメンバーのうち工学部所属のメンバーが理工科系のリーグ戦に出場するという現在の形式になった。つまり、工学部体育会バレーボール

部としては、理工科系リーグの試合参加と、その直前の練習だけであった。

このことは、バレーボール部にとって良い点と悪い点の両方の効果をもたらした。

まず良い点として、練習の人数が確保できることが挙げられる。工学部のメンバーだけでは、人数を必要とする練習、例えば試合形式の練習などをすることができなかったが、それが可能となった。また、技術・体力の勝る工学部以外のメンバーと切磋琢磨することで、より技術・体力を伸ばすことができた。

反面、普段の練習は同好会としての活動であり、関東大学排球同好会連盟の試合に勝利することが第一目標となっていた。そのため、試合前を除いて工学部体育会バレーボール部としてのチーム練習を重ねることはできず、他大学が取り組むように1年ないし半年かけてチームを作っていくようなことはできなかった。

これらのことが、工学部体育会バレーボール部にとって、結果的に良かったかどうかの結論を出すことはできない。ただ KVC は、慶應義塾大学内の他のバレーボールの同好会に比して、他大学との試合に勝つことを目標に日々努力するという性格が強く、より体育会に近いという評価を得ている。この伝統は、工学部体育会バレーボール部と活動を共にした結果がもたらした良い影響であったと信じたい。

KVC としての活動

KVC とは

KVC とは慶應バレーボール同好会の略称であり、慶應義塾大学の現役学生で構成され、関東大学排球同好会選手権での勝利を目標とする同好会である。1965 年ころ設立され、当初は男子選手と女子マネージャーで構成されていたが、女子の人数が増え、自分たちもバレーボールをやりたいとの思いから、女子も選手として活動するようになった。現在では、男女それぞれが複数チームを作り、関東大学排球同好会選手権に出場している。

過去数回の優勝を誇っているが、残念ながら、正確な記録は保存されていない。戦績はそのとき

のメンバーの充実度に左右され、決勝リーグまで勝ち上がることもあれば、予選敗退で終わってしまうこともある。

多いときには、男子が 40 名、女子が 20 名くらい所属していたこともある。最近ではその半分程度に留まっている。所属人数に合わせ、複数チームに分かれて練習し、試合に臨んでいる。

練習

授業のある時期には、日吉の馬場コートで毎週月曜から土曜の 15 時から日没まで練習していた。馬場コートは屋外の土のコートで、2 面あったが、ポールは固定されており高さを変えることはできなかった。

3 年生になると、文系学部は三田キャンパスに移るため、練習に参加しにくくなっていた。理工学部は 3 年生からも矢上キャンパスなので、場所としては比較的練習に参加しやすいが、授業や研究課題もあり、やはり 3 年生からは練習に参加しにくくなる状況に変わりはなかった。ただ、それでも毎日試合形式の練習ができる程度の人数は揃っていた。

バレーボールは 1970 年代にインドア化が進み、1980 年ころにはほとんどの高校のバレーボール部の活動が体育館で行われるようになっていた。そのため、屋外での練習に違和感を覚える者も多く、体育館での練習を画策することとなった。矢上の体育館だけではなく、日吉の記念館、慶應義塾高等学校、慶應義塾普通部など当たったが、矢上の体育館は天井が低くて利用できず、またその他の体育館も使用時間を割り当てていただくことはできなかった。

そこで、一般の有料体育館を借りることを検討した。なるべく近隣の体育館を手配したかったが、一般の体育館は二、三か月前に申し込み、抽選で予約するような仕組みであるところが多く、固定的な体育館確保はできなかった。現在はインターネットでの申し込みが可能であるが、以前は電話、郵送、現地での申し込みなどさまざまで、非常に苦労した。

1 回の練習で数千円の費用がかかり、学生の負担としては大きい。年 2 回の試合シーズン前に各 2 か月間、週 2 回の体育館練習を実施し、それ以

外の期間は馬場コートでの練習を継続することにした。

この形式は 2000 年ころまで続いていたが、馬場コートでの練習に人数が集まらなくなり、やむを得ず年間を通じて体育館を使用する形式に変遷していった。なるべく使用料の安いところを探してはいるが限界がある。残念ながら、慢性的な部費不足に悩まされているのが現状である。

対外試合

関東大学排球同好会選手権は毎年春季(4~5月)と秋季(10~11月)に開催される。選手権が終了するタイミングで新たなチームを編成する。活動としては KVC として一体であるが、練習は各チームが分かれて対抗し、切磋琢磨している。

基本的には、学年学部関係なくチームを編成する。以前は大学院生も何名か含まれていたが、現在では大学生のみで大会に参加している。年に 2 回のチームビルディングを体験できるので、将来バレーボール以外でも役に立つ。ただし、4 年生の秋季の大会だけは、4 年生でまとまってチームを編成する。

このチームで選手権に挑み、少しでも上位の成績を残せるよう日々精進している。

理工学部体育会に関しては、選手権の終了後に理工学部生だけのチームを編成する。選手権の直後に関東理工科系バレーボール連盟主催リーグが開催されるため、チームでの練習量は限られるが同好会選手権に向けた練習を重ねているので、選手個々のコンディションは高まっている状態で試合に臨める。

合宿

年 2 回、春休みと夏休みに約 1 週間の合宿を行っている。合宿所は運営担当によりその都度選定されるが、近年では千葉の九十九里浜方面で実施されることが多い。

火曜に移動、水曜から土曜(女子は金曜)まで各チームに分かれて練習、日曜(女子は土曜)にチーム対抗戦を開催し、月曜に移動するのが一般的なスケジュールである。ここでも理工学部体育会としての単独の活動はしていない。チーム対抗戦には OB/OG も集まりチームを作って参加する。各チームは選手権より前の最初の目標として、この

対抗戦での優勝を目指し切磋琢磨している。

他大学との交流

早慶戦と称して、年 3 回 3 月、9 月、12 月に早稲田大学バレーボール同好会と交流戦を実施している。また、早慶関戦と称して、年 1 回関西大学バレーボール同好会も加わって交流戦を実施している。

OB/OG との交流

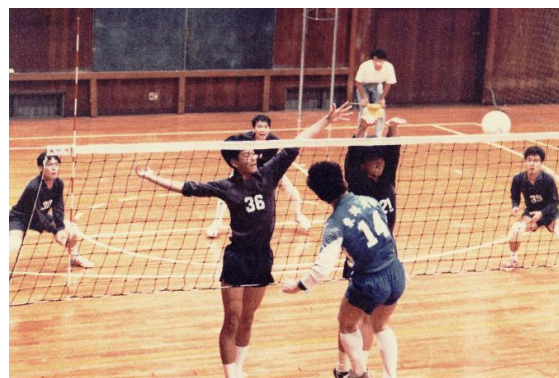
以前は OB/OG 戦と称して、OB/OG を招き学部対抗戦などを実施していたが、OB/OG の参加が少なく、また土日の体育館確保も難しくなったため、近年は開催されていない。代わりに、合宿最終日の試合がそれに相当する位置づけになっている。

また OB/OG 会が組織されておらず、近い学年の OB/OG で個別に集まることはあっても、総会のような形で年次で集まる会がないのは、50 年近い伝統のあるクラブとして誠に残念である。

戦績

理工リーグでの戦績

関東理工科系バレーボール連盟主催リーグ(理工リーグ)は、春季(5~6月)と秋季(11~12月)に、5 チームずつ複数の部に分けて開催されている。上位から 1 部 2 部と続き、現在では 5 部までである。季節ごとに部の中で総当たり対戦し順位を決める。1 日(1 週)で 2 チームと 3 セットマッチの対戦をし、2 日(2 週)で決着がつく。以前は、上位の部の最下位チームと下位の部の 1 位チームが入替戦を行い、勝利チームが上位リーグに昇格または残



1988 年秋季の試合風景

留していた。現在は入替戦がなく、上位の部の最下位チームと下位の部の1位チームが自動的に入れ替えられる。

理工リーグでは、過去数回1部で優勝しているが、残念ながらエビデンスは残されていない。OBなどの記憶による証言をもとに、わかる範囲で戦績を列挙する。

- 1972年度春季 2部ないし3部
- 1972年度秋季 1部ないし2部
- 1973年度春季 1部
- 1973年度秋季～1976年度秋季 2部
- 1977年度春季～1977年度秋季 2部ないし3部
- 1985年度 1部1位
- 1986年度春季～1987年度秋季 1部
- 1988年度春季 1部5位→入替戦2部降格
- 1988年度秋季 2部5位→入替戦3部降格
- 1989年度春季 3部1位→入替戦2部昇格
- 1989年度秋季 2部2位
- 1990年度春季 2部1位→入替戦1部昇格
- 1990年度秋季～1991年度春期 1部2位
- 1991年度秋季 1部3位
- 2000年度春季 3部
- 2000年度秋季 3部1位→入替戦2部昇格
- 2001年度春季 2部1位→入替戦1部昇格
- 2001年度秋季～2002年度春期 1部
- 2002年度秋季 1部1位
- 2003年度春季～2004年度秋季 1部
- 2005年度秋季 1部2位
- 2006年度春季 1部5位→入替戦1部残留
- 2006年度秋季 1部5位→入替戦2部降格
- 2007年度春季～2007年度秋季 2部
- 2008年度春季～2008年度秋季 2部2位
- 2009年度春季～2009年度秋季 2部4位
- 2010年度春季 2部5位→3部降格
- 2010年度秋季 3部2位

- 2011年度春期 3部1位→2部昇格
- 2011年度秋期 2部3位
- 2012年度春期 2部4位
- 2012年度秋季 2部1位→1部昇格
- 2013年度春季 1部4位

近年の様子

普段は慶應バレーボール同好会(KVC)として活動し、関東理工科系バレーボール連盟主催リーグ(理工リーグ)に参加するときは理工学部生により編成されたチームで出場するという形式は現在も変わらない。理工体としては現役の人数が男子9名しかいないが、KVCとしての活動では男子30名女子23名の大所帯で、普段から活気ある練習を重ねられている。

また、合宿には多数のOB/OGが駆けつけ、最終日の対抗戦は、大きな盛り上がりを見せている。

OB/OGを含めた縦のつながりと、学部をまたいだ横のつながりがKVCの実力を高め、それが結果的に理工体としての実力も高めることにつながっていると言えよう。

これからも、勉学に励むとともに、体育会の精神を受け継いだ同好会として、そして理工学部体育会として、部内で切磋琢磨し、試合で良い結果を出せるよう努力していった欲しい。



2013年夏合宿の集合写真

部員数の推移(卒業年ごと)

